

事業名	離島漁業再生支援交付金事業	総事業費	25,496	千円
-----	---------------	------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図		漁業所得を確保する。
事業の実績 と成果	取組内容	漁場の生産力の向上として、ナガラメ稚貝放流活動・藻場の造成・ウニ駆除・漁場監視・イカ産卵礁投入、イカ柴投入を実施した。 漁業の再生に関する実践的な取組として捌き方教室・加工品加工販売・魚かご試験操業を実施した。 漁業の再生に関する話合いで各漁業集落の取組や漁業の現状について協議が行われた。
	成 果	継続的な取組の実施により、漁場環境の改善について、創意工夫を生かした取組を実施できた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業実施にあたり、各漁業集落内で取組に参加する構成員が減少してきている。 事業の目的達成のため、構成員の拡大を図り、漁業集落で必要な取組を実施できる環境づくりについて事業実施者と協議していく。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、販売・生産面で不利な状況にある離島地域において、離島漁業再生支援交付金を活用し、漁業集落において共同で漁業再生に取り組む事業を行うものである。令和5年度においては、漁場の生産力の向上に係る継続的な取り組みとして、ナガラメ稚貝放流・藻場再生、管理・漁場監視・イカ産卵礁、イカ柴の投入、サメ駆除などを実施した。藻場再生については、久保田・上古田漁港において、鹿児島大学と連携し栄養分添加による実証を行っている。一定効果が確認されていることから引き続き、継続的な取り組みを行っていく。また、漁業の再生に関する実践的な取組においては、保育園や小学校、高校おける魚の捌き方教室のほか、年の瀬市などの加工品加工販売などを実施した。 第4期計画は、令和2年度から令和6年度までが計画期間となっている。次年度は計画の最終年度として、引き続き各集落の話し合いを通じ、効果的な取組に繋げたい。なお、次期第5期の計画については、現在のところ国から情報提供がなく未定である。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	離島漁業再生支援交付金は第4期の最終年度であり、この5年間の取組の検証を行う。また、第5期の実施については国からは示されてないが、各漁業集落に事業継続の意思確認し適宜指導を行う。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	トコブシ稚貝放流の様子 トコブシ稚貝85,000個放流 (住吉：20,000個、西之表：26,000個、国上：5,000個、湊：1,000個、東海33,000個) トコブシ稚貝を放流・管理することにより、トコブシ資源の維持・増大を図った。

事業名	水産多面的機能発揮対策事業	総事業費	700 千円
-----	---------------	------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	資源状況の悪化、魚価の低迷、漁業就業者の高齢化等により水産業においては厳しい状況にある中、資源管理の試験的な取り組みを行い、漁業者の取組の指針を構築する。	
事業の実績 と成果	取組内容	・専門機関への研究委託による藻場の栄養添加試験の実施及び水中の栄養塩濃度の計測調査。 ・沿岸海域の藻の生息状況調査。 ・トコブシ陸上養殖の試験飼育。 ・港湾（柳原）の竣工工事。
	成 果	・栄養添加による、藻の成長促進は確認できた。 ・トコブシ稚貝を陸上で試験飼育を行った。 ・柳原の港湾を竣工することにより、潮の満ち引きに関わらず、港湾を使用することができるようになった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・潮汐などの流れにより、藻場の栄養が予想以上に流れ出てしまい、期待通りの効果を出せていない。今後、栄養添加の効果を漁港内に留まるための工夫が課題。 ・トコブシ稚貝の飼育については、初の試みであり、トコブシの行動に苦慮しているが、飼育自体は成功している。今後、夏季の水温やトコブシの行動などへの対応が課題。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鹿児島大学水産学部等と連携し令和3年度は冬場の成長期に栄養添加、令和4年度は夏場における藻の着生時期から栄養添加試験、一定の効果が確認された。3年目となる令和5年度は、栄養添加を増量して実証を行なったが、潮の流れの影響もあり効果の検証が十分に得られず課題が残った。藻場の再生は、漁業環境において大きな課題であり、引き続き、継続的な取組を行い、実証を重ねていく必要がある。トコブシ稚貝の飼育試験については、令和5年度からの新たな取組であり、飼育環境等を比較しながら、成長との関係を検証していきたい。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	・研究委託事業は栄養添加に加えて、藻場造成に必要な漁礁や設置個所等について協議する。 ・トコブシ陸上養殖試験飼育は、施設を拡大し、止水養殖から流水養殖へ変更できないか検討する。 ・流れ藻の状況に応じて各小組合での撤去作業に対して支援を行う。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	鹿児島大学研究委託事業 藻場回復 栄養添加試験 栄養（肥料）を成分分解性袋に詰め、久保田漁港内に投入。 6月～2月までの9ヶ月間、月2回のペースで栄養を添加した。

事業名	漁業環境整備事業	総事業費	232 千円
-----	----------	------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図		共同利用施設の軽微な修繕及び更新費用等を支援することにより、漁業の経営安定をと水産物の安定供給を図る。
事業の実績 と成果	取組内容	共同利用施設の整備 ・種子島漁協の誘導灯の更新 ・上能野小組合の係留環の増設
	成 果	老朽化した共同利用施設の整備を行い操業の効率化を図るとともに、漁港標識等の整備を行い安全対策を実施した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	・潮汐などの流れにより、藻場の栄養が予想以上に流れ出てしまい、期待通りの効果を出せていない。今後、栄養添加の効果を漁港内に留まるための工夫が課題。 ・トコブシ稚貝の飼育については、初の試みであり、トコブシの行動に苦慮しているが、飼育自体は成功している。今後、夏季の水温やトコブシの行動などへの対応が課題。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和5年度は、要望に基づき2件（誘導灯更新、係留環の増設）の取組みを支援し、施設の機能維持に努めた。共同施設が老朽化する中で、小組合からの要望を踏まえ、施設を維持させていく必要がある。一方で、今後新たな水産振興計画を策定する中で、今後の小組合のあり方、施設の維持について将来を見据えた検討も必要である。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	漁港港湾において、共同で利用する施設等を支援する。
-----------	---------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	種子島漁協_誘導灯の更新 馬毛島_椎ノ木港に取り付けてあった誘導灯が経年劣化により、付かなくなり漁船の航行の妨げとなっており、誘導灯の更新を実施した。

事業名	有害水産動植物駆除事業	総事業費	117 千円
-----	-------------	------	-------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図		種子島漁協の漁業種別水揚げにて3割程度を占める一本釣り漁において、被害の多いサメ駆除を実施し、その被害の抑制を推進する。
事業の実績 と成果	取組内容	サメ団体駆除の実施
	成 果	サメ団体駆除においては、漁協青壮年部を中心に、団体駆除を1回実施

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	サメによる漁業被害に対して、漁協青壮年部が集まって駆除を行える機会が少ないこと。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	一本釣り漁で被害の多いサメの駆除において、団体で捕獲に取り組み、被害軽減に向けた活動を行ったが、昨年度に引き続き1回の実施に留まった。サメの駆除は、生態を十分把握できない中で駆除活動を行うため、直接的な効果が見えにくいという課題がある。令和5年度で、事業は終了するが、近年サメ被害の声が多く寄せられていることから、今後は、離島漁業再生交付金事業において、各集落の取組として、引き続き、被害の実態を踏えた駆除の時期・方法等の効果的な取組を行っていくこととする。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	事業年度が終了。 今後のサメへの対応については、他事業にて随時対応。
-----------	---------------------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	種子島漁協青壮年部によるサメ駆除 仕掛け回収の様子

事業名	漁港維持補修事業
-----	----------

総事業費	4,802 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図		適切な漁港施設を維持することで、安心・安全に施設を利用できる。
事業の実績 と成果	取組内容	漁港・海岸施設等の不具合箇所の調査・立会を行い補修を行った。
	成 果	適切な漁港施設を維持することで、安心・安全に施設を利用できるようになった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	各漁港の施設の老朽化が進行しており、補修や改良整備が必要になってきている。また、利用者からの要望も増加している。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	災害の防止及び施設の延命化が図られ経費の削減が見込まれる。また、漁港施設の機能確保図られることから、計画的に実施する必要がある。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	漁港施設の不具合箇所の調査を行い、機能回復を目的として補修工事を行う。
-----------	-------------------------------------

【参考資料】

着工前	完成後
	

事業名	県単漁港整備（負担金）事業
-----	---------------

総事業費	290 千円
------	-------------

① 計画（Plan）

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施（Do）

事業の意図	漁港施設の機能充実を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	漁港・海岸施設等の不具合箇所の調査・立会を行い補修する。
	成 果	適切な漁港施設を維持することで、安心・安全に施設を利用できる。

③ 振り返り（Check）

事業実施上の課題 （事業担当者記入）	各漁港の施設の老朽化が進行しており、補修や改良整備が必要になってきている。
評価結果の根拠 及び今後の課題 （担当課長記入）	漁港整備に係る負担金で、適正に執行されている。

④ 改善（Action）

2024年度方向性	現時点での予定なし
-----------	-----------